



青森の被災状況

青森県は太平洋沿岸部(三沢市・八戸市)で津波による大きな被害を受けました。場所によっては最大8mの津波が押し寄せてきました。漁港、沿岸部にある工場地帯、住宅など広範囲に渡って浸水し、八戸市では最大9,200人余りの人たちが公民館や小学校に避難しました。鮫教会近辺の八戸港、鮫漁港付近もすべて浸水しました。

鮫教会はJR八戸線(八戸 久慈間)鮫駅から約300mほど高台にあります。震災当日は鮫駅近くまで津波が押し寄せてきました。震災の津波で三沢市、八戸市では多くの方々の職場や家、車が流されるなど大きな被害に遭いました。震災から5ヶ月が過ぎ水産加工工場など一部は復旧し再開しましたが、個人の工場またはお店、住宅などは当時の状況のまま残っています。しかしながら八戸港、鮫漁港などが再開されたことによって貨物船、フェリー(苫小牧 八戸間) 漁船などが往来するようになり復旧に向けて進み始めました。震災前の状態に回復するまでどれほどの期間がかかるかわかりませんが、復旧に向けて動き始めました。



盛岡教会の活動



震 災発生から今日まで、全国の皆様のお祈りとご支援、ご協力を心から感謝申し上げます。

盛岡教会ではこれまで、「教会関係者への支援活動」、「問安者・視察者の受け入れ」、「チーム青森・岩手での支援活動」、「現地支援委員会・本部との協力」の4つの活動に取り組んできました。

教会関係者への支援活動

教会の子供プログラムなどによく遊びに来ている子供たちの親族が沿岸地域におられ、今回の大震災で大きな被害を受けました。ご家族や関係者の方々との出会いが与えられていく中で、盛岡教会は岩手県沿岸地域での支援活動を行なっていく事を決断しました。支援活動の範囲を教会の関係者の方々に絞り、必要な物や助けを慎重に聞き分け、特に、私たちのすべき事、行政や他の団体がすべき事、沿岸地域の方々がすべき事を、慎重に吟味しながら支援活動を続けてきました。そして、お一人お一人が守られる事を祈りつつ、布団をはじめ、ストーブやその他の生活必需品を調達しました。また、支援活動を続けていく際には、様々な方々が、貴重なご支援とご助言をくださいました。小さく足りない私たちが、本当に多くの方々の祈りに支えられ、ここまで支援活動が守られてきました。盛岡教会に集まった救援物資



問安者・視察者の受け入れ

これまでに多くの方が盛岡教会を訪れて下さいました。その度に私たちは励まされ、慰められてきました。そして、教会を訪れて下さった方々を沿岸地域や支援活動で関わっている方々のところへご案内し、共に祈る時を過ごさせていただきました。



チーム青森・岩手での支援活動

早くから私たちの教会をご支援下さっていた北海道連合の方々や、青森地区の一部の現地教会の方々と協力して「チーム青森・岩手」が立ち上げられました。招集時には岩手地区に絞ってチームの編成を考えておりましたが、被災地域にあたる青森地区での支援活動の可能性をも視野に入れていく事になり、支援の可能性がグッと広がられていきました。4月に、「連盟災害対策本部」から「大槌町立安渡小学校避難所」へ物資が輸送されました。そして、洗濯機と高速脱水機が貸与されました。5月には、掃除機3台を貸与し、大変喜ばれ、その際に炊き出しの要請を受けたので、「チーム青森・岩手」で担う事になりました。そして、6月11日に行われた350食分の炊き出しをはじめ、それから4回にわたって炊き出しが行われました。



現地支援委員会・本部との協力



これまでの活動では、連盟の災害対策本部との協力が大きな部分を占めてきました。本部から物資支援やボランティアの派遣も行なって下さり、特に自動車や機材の貸与は大きな助けになりました。また、岩手沿岸地域での支援活動推進、海外ボランティア団体・視察団体の受け入れ(テキサス州連盟、APBFなど)、遠野市のボランティアセンター、ゲストハウスの立ち上げに対する協力の要請を本部から受け、共に働いてまいりました。また、新しく設立された現地支援委員会の福島地区・宮城地区の方々と状況を報告し合い、祈りの課題を共有しております。

祈りの課題

教会関係者への支援活動、具体的には、陸前高田市、大船渡市のご自宅への訪問、陸前高田市、釜石市の仮設住宅の訪問、大船渡市にある高田高校への訪問などの活動が守られますように。バプテスト連盟災害対策本部主催の「遠野ボランティアセンター」を中心とした活動との連携が守られますように。青森県諸教会と岩手県盛岡教会の協働が豊かになりますように。